



「大学の国際化のための ネットワーク形成推進事業」 の成果等について

(2009年度～2013年度)

目次

- I. グローバル30以前
- II. グローバル30の経緯
- III. グローバル30の成果

I. グローバル30以前

1983年「留学生10万人計画」(当時約1万人)

- 発展途上国への「支援」

2000年以降

- グローバル化の進展
- 外国の優秀な人材を求める産業界からの要請

2008年「留学生30万人計画」(当時約12万人)

- 「国益」につなげる戦略的施策
- 国際化の拠点となる大学を30選定する方針

Ⅱ. グローバル30の経緯

2009年「国際化拠点整備事業(グローバル30)」

【背景】

- 世界の大学間競争が激化
 - 一方、日本の大学の国際化は不十分

【趣旨】

- 国際競争力の向上を目指し、
 - 優秀な外国人学生や教員の受入れを促進
 - 大学の国際化拠点として、総合的な体制を整備

2009年「国際化拠点整備事業(グローバル30)」

【主な取組】

- 英語による授業で学位取得が可能なコースの導入
- 国際公募等による外国人教員の配置
- 海外でのリクルート活動(留学フェア、高校訪問等)
- 「海外大学共同利用事務所」の設置

【公募・選定】

- 公募により、22大学から申請
- 採択13大学を決定、事業開始

2009年「行政事業仕分け」

- 9月の政権交代に伴い、2010年度概算要求組み直し
→ **新規要求をとりやめ、13大学への継続要求のみ**
- 11月「行政事業仕分け」
→ **予算要求額の縮減、支援額が2～3割程度減**

2010年「行政事業仕分け」

- 11月「行政事業仕分け」
→ **「一旦廃止し、組立て直し」**
- 「産学連携によるグローバル人材育成推進会議」を設置。以下により事業を組み直すよう提言。
→ **国際化に取り組む大学のネットワーク化**
→ **産学連携の取組の強化**
- 提言を踏まえ、2011年度より事業組み直し
「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」

2011年「中間評価」

- 5年の補助事業の3年目に実施。書面評価と現地調査を踏まえ、評価結果をとりまとめ
- 全体評価
→「採択された13大学において大学の目標や中期計画等において大学の国際化を位置づけ、**大学全体としての国際化が戦略的に推進**されている」
- 個別評価
→S評価：1大学、A評価：10大学、B評価：2大学

2011年「中間評価」

| 設置区分 | 大学名 | 総括評価 |
|------|-------------|------|
| 国立 | 東北大学 | A |
| 国立 | 筑波大学 | A |
| 国立 | 東京大学 | A |
| 国立 | 名古屋大学 | A |
| 国立 | 京都大学 | A |
| 国立 | 大阪大学 | A |
| 国立 | 九州大学 | A |
| 私立 | 慶應義塾大学 | B |
| 私立 | 上智大学 | B |
| 私立 | 明治大学 | A |
| 私立 | 早稲田大学 | A |
| 私立 | 同志社大学 | S |
| 私立 | 立命館大学 | A |
| 国立 | 東京大学（推進事務局） | A |

（参考）総括評価の基準

| 評 価 | 評 語 |
|-----|---|
| S | 優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。 |
| A | これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。 |
| B | 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。 |
| C | これまでの取組状況等に鑑み、目的の達成が困難な取り組みがあると考えられ、成果を見込めない取り組みについては縮小・廃止し、財政支援規模の縮小が妥当と判断される。 |
| D | これまでの取組状況等に鑑み、事業目的の達成は著しく困難と考えられ、財政支援の中止が妥当と判断される。 |

2013年「行政事業レビュー公開プロセス」

● 6月「公開プロセス」の実施

| | | |
|-------|-------------|----|
| 評価結果： | 事業内容の改善 | 3名 |
| | 事業の全体の抜本的改善 | 2名 |
| | 現状通り | 1名 |

「事業内容の改善」の主なコメント

- ①学部、大学院を区別した戦略が必要
- ②大学の国際競争力増強を主導することが必要。またこれによって投資効果の高い公的助成を行う
- ③インターネットの教育利用や学生寮などの整備が必須

「事業全体の抜本的改善」の主なコメントは、

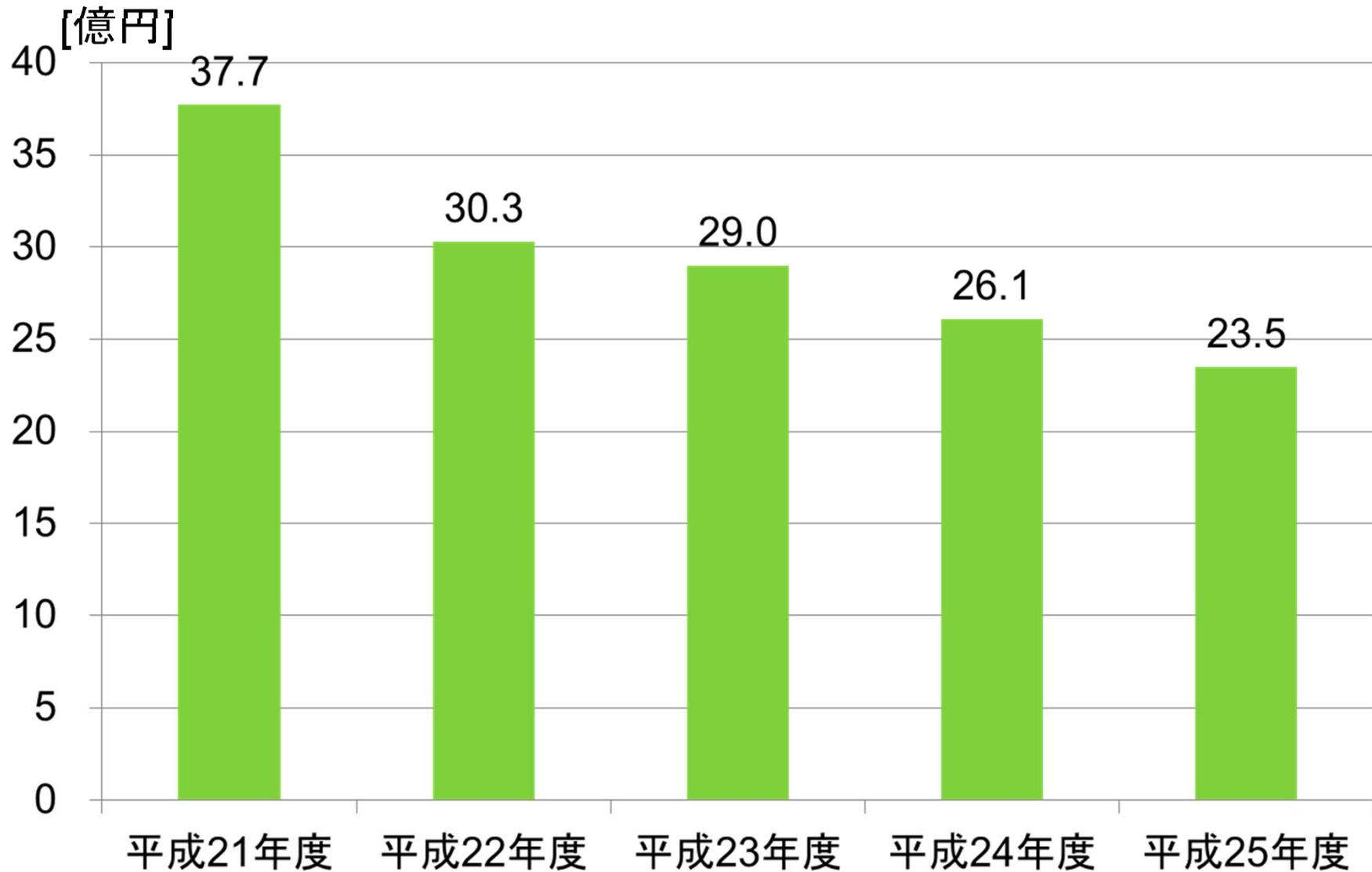
- ①日本人学生の国際化に有益な改革が必要
- ②大学の教育研究水準向上のための評価手法、情報公開の改善が必要。日本人学生の英語授業前後の成績の公表と、さらに大学教育の全般にこの事業がどのような成果があったかということをも明らかにして公表すべき。

「現状通り」のご意見の主なコメント

- ①ネットワーク作りの取組みが評価できる

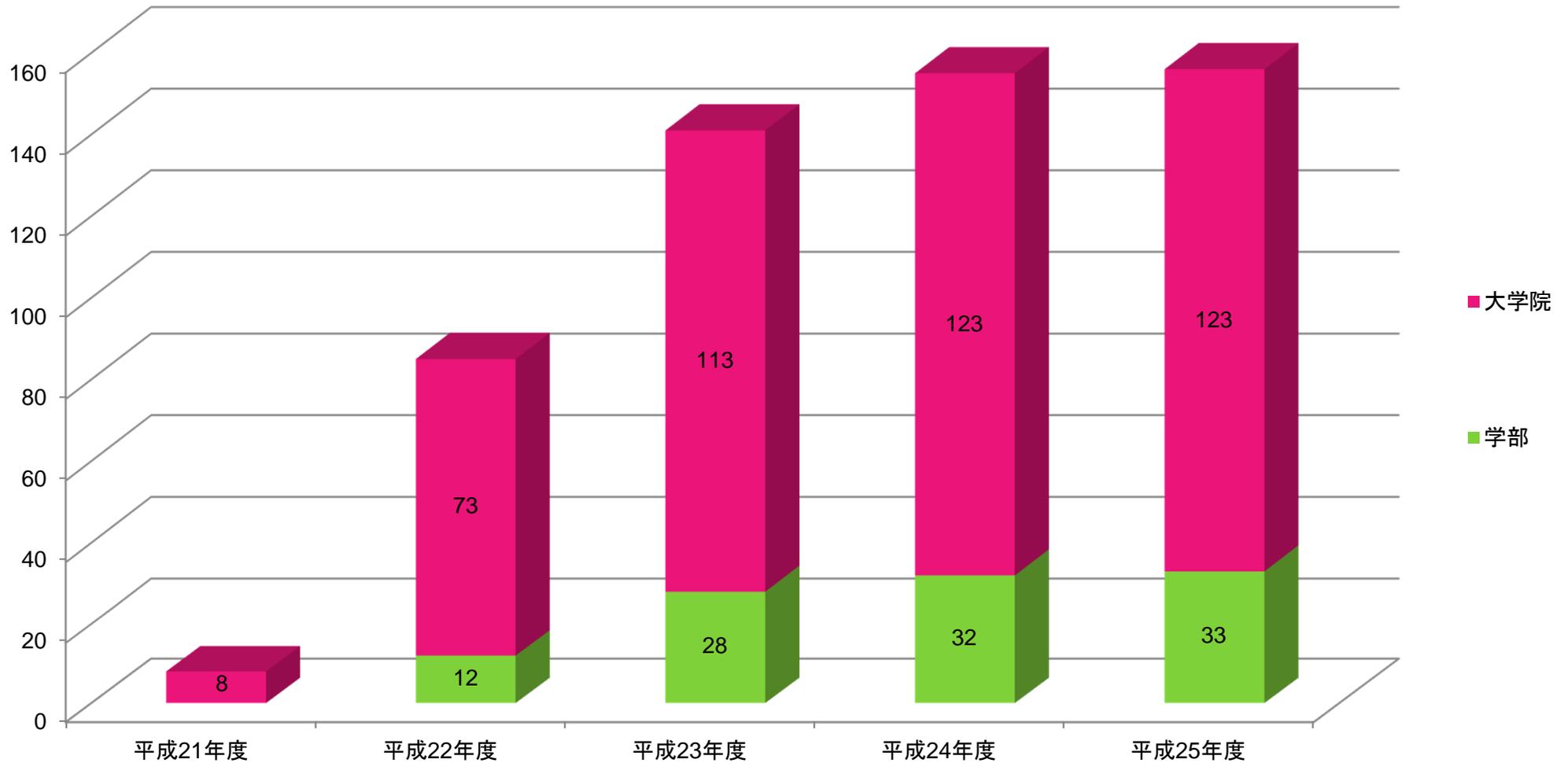
Ⅲ. グローバル30の成果

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業予算推移



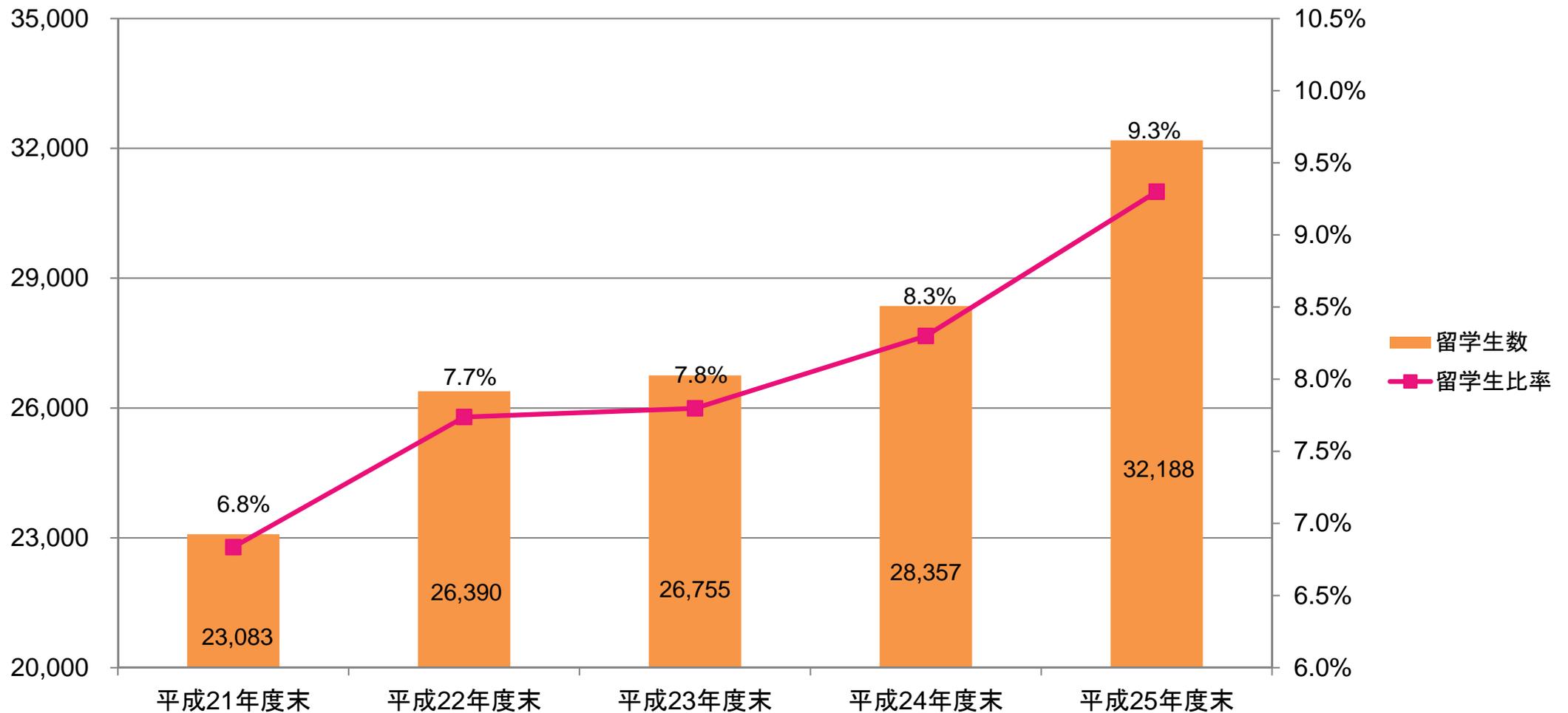
これまでの「成果」

● 英語コースの開設数



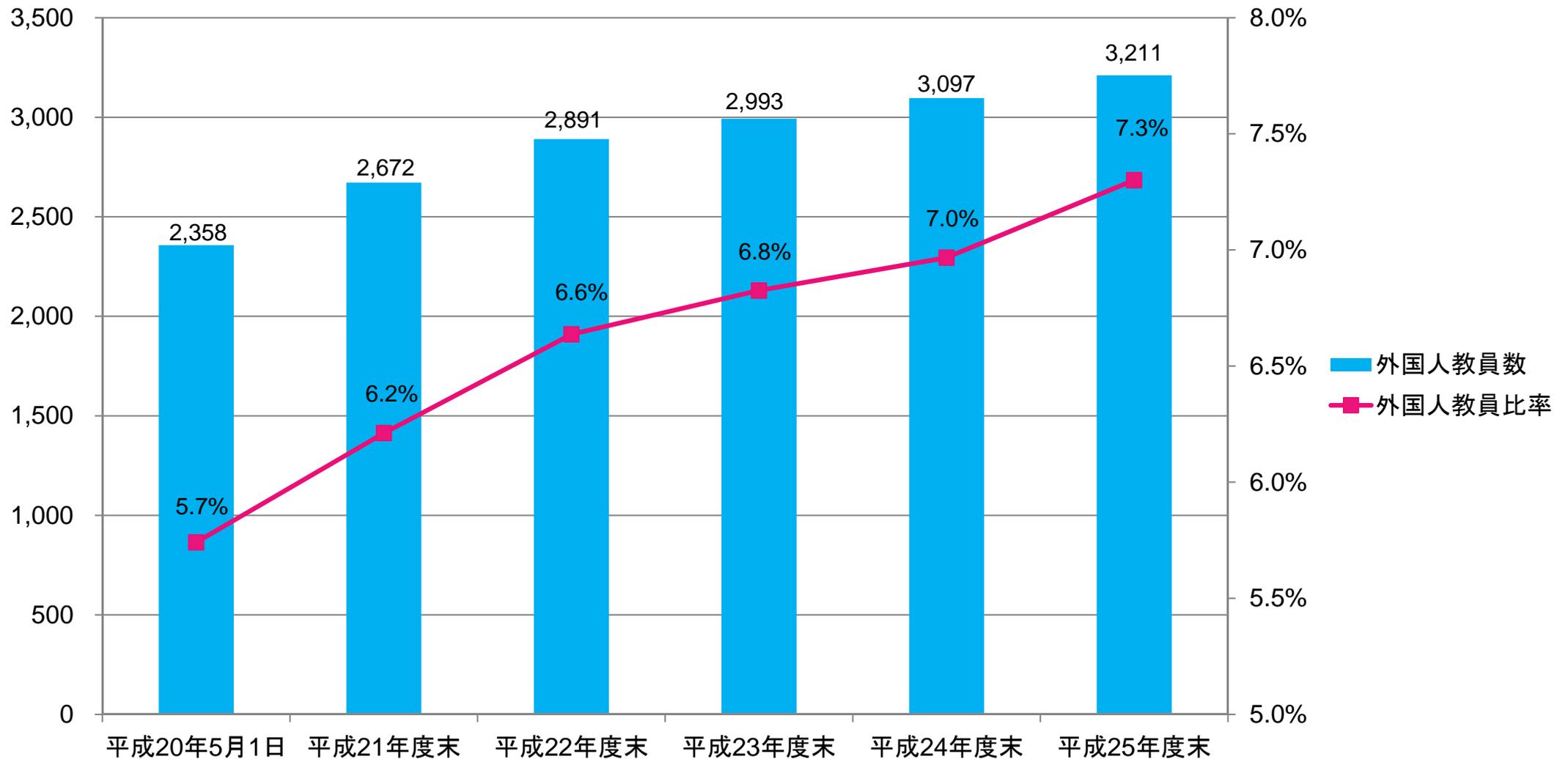
これまでの「成果」

● 留学生の受入数



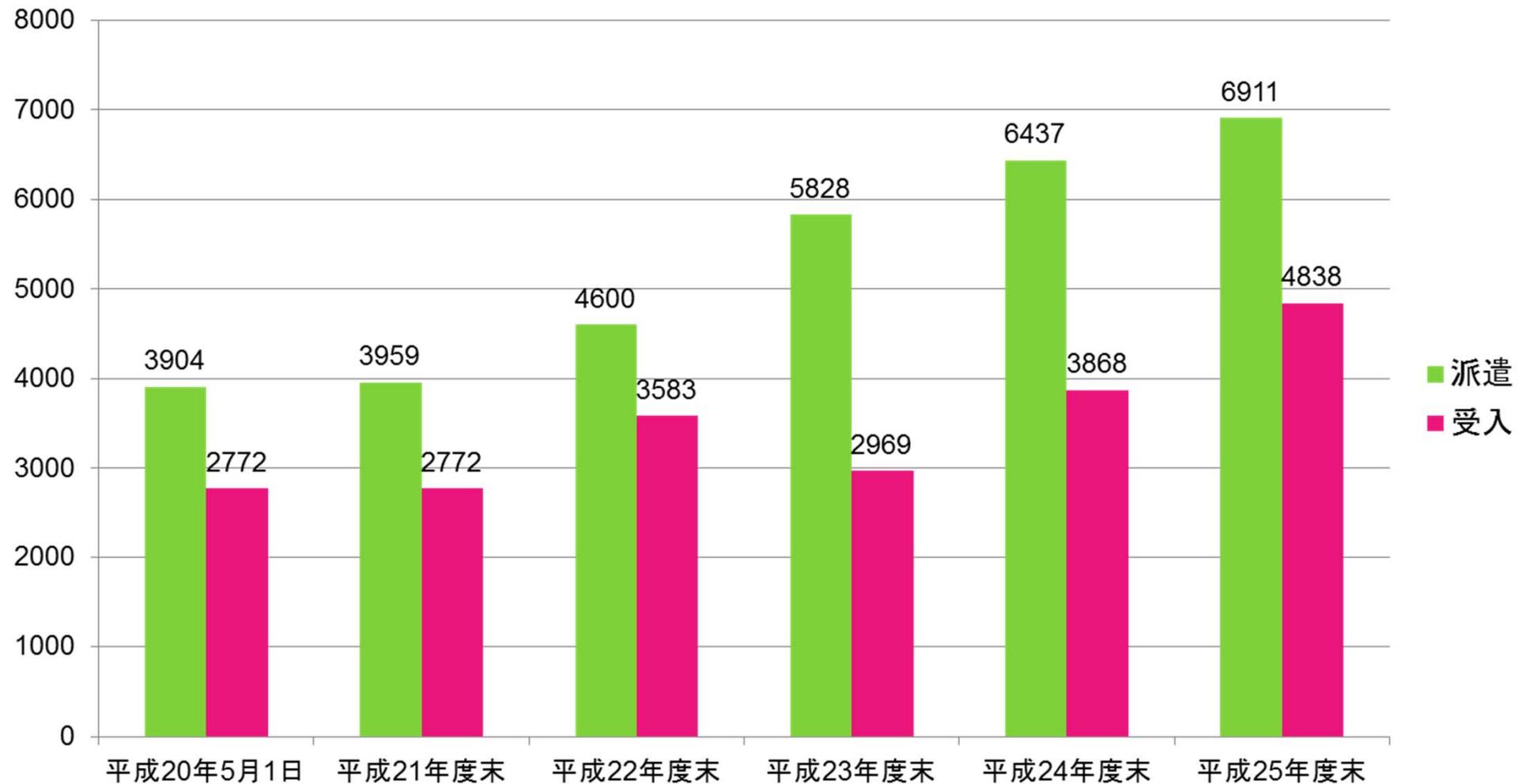
これまでの「成果」

● 外国人教員数



これまでの「成果」

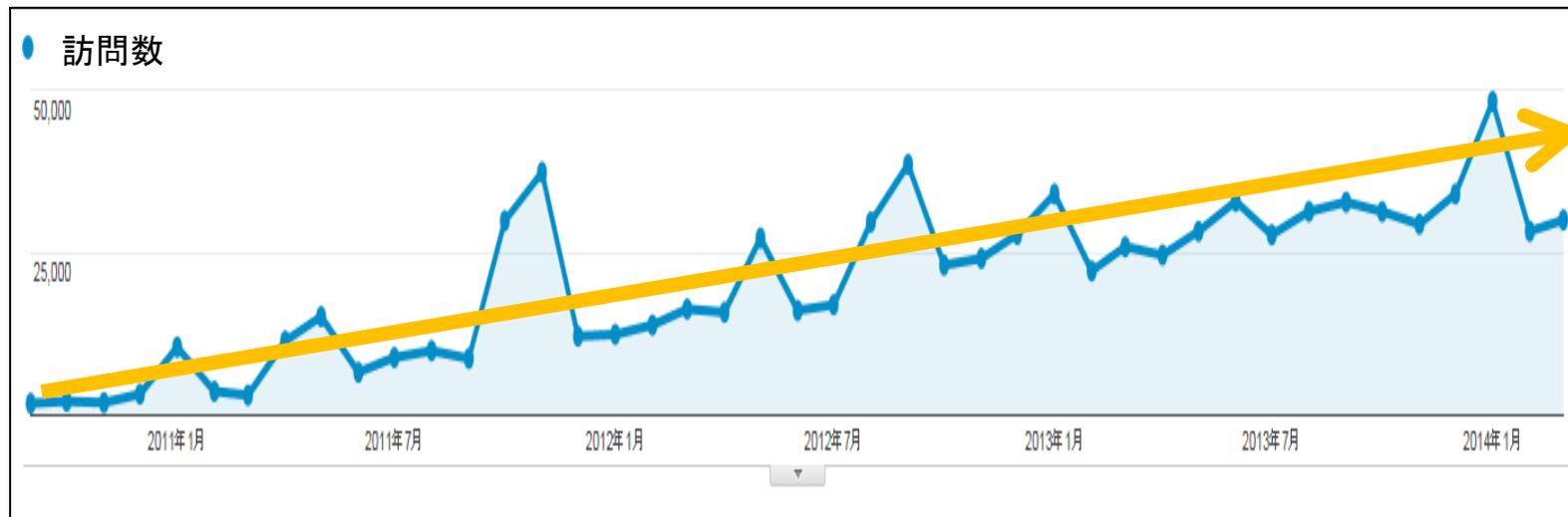
● 交流協定等に基づく派遣・受入学生数



これまでの「成果」

「グローバル30推進事務局」の設置（於：東京大学）

- 「Global 30」ウェブサイト：約89万人が訪問
（平成22年9月－平成26年3月末）



- 留学フェア：約4.3万人が来場（平成22年1月～平成26年3月）
（ベトナム、タイ、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、シンガポール、米国、韓国等で開催）

「成果」のまとめ

【英語コース】平成21年度：学部0、大学院7コース

→ **学部33、大学院123コース**（平成25年度末）

【留学生の受入】平成21年度末から平成25年度末にかけて**約1.4倍**

【外国人教員数】平成20年5月から平成25年度末にかけて**約1.4倍**

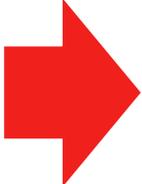
【交流協定等に基づく派遣・受入学生数】

派遣：平成20年5月から平成25年度末にかけて**約1.8倍**

受入：平成20年5月から平成25年度末にかけて**約1.8倍**

【ウェブサイト】「Global 30」のウェブサイトには、累計**約89万人**が訪問

【留学フェア】**約4.3万人**が来場（平成22年1月～平成26年3月）

 海外において、グローバル30としてのブランドが確立